

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「一人ひとりがかがやき、みとめ合い、つたえ合い、たかめ合う西本小の子」
○自他の心情を尊重し、共に支え、高め合う関係を大切にします。(徳・開)
○自分のめあてを見付け、主体的に課題の解決に努める姿勢を大切にします。(知)
○よりよい生活を送るための実践力を身に付け、生きる喜びを実感できるようにします。(体・公)

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

〈問題発見・解決能力〉
〈自分づくりに関する力〉

具体化した資質・能力

- 問題を発見する力
○思いや願いを表現する力
○自己を理解し、自分らしさを発揮しようとする姿勢
○基本的な生活習慣をつくる態度
○自己を理解し、自分らしさを発揮しようとする姿勢
○他者の考えを尊重し、合意形成しようとする姿勢

中期取組目標

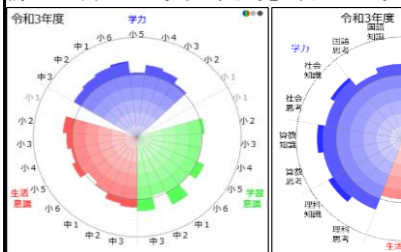
○子どもたち一人ひとりがかがやき、認め合い、伝え合い、高め合う子を育てるために、活力と魅力にあふれた学校づくりを目指します。
・一人ひとりの子どもが、学習の楽しさを実感できる授業づくりを推進し、子どもの表現を大切にしながら学力の向上を図ります。
・一人ひとりの子どもが、自己有用感をもち、安心して、楽しく学校生活が送れるようにします。
・健康な心身をつくるための生活習慣が形成できるようにします。
・まちの「人」とのつながりを意識し、豊かな体験を通して、まちを愛する心を育てます。
・小中一貫教育推進ブロックや家庭・地域と連携し、社会・地域の要請や信頼に応えた学校づくりを進めます。
・全教職員が学校経営に主体的に参加し、活力のある学校づくりを推進します。

学力向上アクションプラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (生きてはたらく知) and 具体的取組 (①学校教育目標を資質・能力ベースで見直し、各教科・単元で育成を目指す資質・能力を明確にした授業づくりを行う。②重点研究テーマを「自分に自信をもち、自分たちで考えて行動できる子を目指して～問題解決学習を通して、自ら学びに向かい、思いを伝える子どもの育成～」とし、生活科、社会科、理科を中心に、主体的に問題を解決するための資質・能力や態度を育成する。)

学力向上に関わる本校の状況

(1) 学力に関わる児童生徒の実態
本校の子どもは、総体として学習意欲があり、学習到達度も比較的高い。令和3年度の学力・学習状況調査では、すべての学年で市平均を上回っていた。



(右は第6学年の観点別結果)
一方で、自分に自信が無く授業への取り組みが消極的になってしまう子どもが多い。また、主体的に物事に取り組もうとする姿勢や思考力に課題がある。

(2) これまでの学校の取組状況
授業におけるユニバーサルデザインを意識し、基礎的・基本的な知識・技能が定着するように丁寧な指導を心がけてきた。
一方、子どもの思いや考えを大切にした授業づくりや、子ども同士が豊かに関わり合い、協働的に学んでいくような授業展開の実現は限定的であった。

今年度の目標

自ら学びに向かい、思いを伝え合いながら問題解決してこうとする子どもを育てるための授業改善

目標を実現するための具体的行動プラン

各学年学級で、「自ら学びに向かい、思いを伝え合いながら問題解決してこうとする子ども」の姿を具体的にイメージし、その実現のために育成すべき資質・能力を明確にする。そのための手立てについて、重点研究で子どもの姿を通して検討し、授業改善を図る。
特に今年度は、生活科、社会科、理科において、子どもが自ら学びに向かえるような材、そしてその材との出会いの工夫について重点をかけて検討する。
また、授業研だけでなく、日々の学年研やメンター研でも検討できるようにする。

上半期の授業研での成果を踏まえ、後半の研究をさらに深めていく。手立てと子どもの姿をつなぐことができるように、授業記録や座席表の活用を検討する。
一年間の実践の成果と課題をまとめ、次年度の研究の方向性を検討する。

豊かな心の育成推進プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (豊かな心) and 具体的取組 (①「あいさついっぱいみんなが笑顔西本小」をスローガンに掲げ、年間を通じて「あいさつ運動」を展開し、自ら進んであいさつできる子を育成する。②全校たてわりによる「なかよし班活動」を取り入れ、異学年の中で互いに認め合える心を育成する。③道徳の時間はもとより、全教育活動を通じて、自他の見方や考え方を大切にできる態度を育成する。)

豊かな心に関わる本校の状況

①「あいさついっぱい みんなが笑顔 西本小」をスローガンに掲げ、年間を通じて「あいさつ運動」を展開している。廊下で上級生が下級生に挨拶をするなど、他学年の児童同士が挨拶する姿も見られ、挨拶の大切さについて気付いている児童が多い。しかし、福祉委員会の児童や高学年の児童は、「もっと挨拶が増えてほしい」という課題も感じている。児童運営委員会でも挨拶を広げよう各クラスに議題を下ろし、話し合う機会も設けている。昨年度から始めた、「西本小さくらりぼん」の活動では、挨拶、仲を深める、安心という三つの柱をもとにりぼんを作った。安心できる雰囲気や学校全体に広がれば、挨拶も増えるのではないかと達成したいめあてをもって取り組んでいる。
②「なかよし活動」を通して、上級生が下級生を思いやって優しく接したり、下級生が上級生の姿を見て憧れたり、学年交流の場となっている。近年、コロナ感染症のため、活動は制限されているが、子どもたちの成長のためには大切な活動である。活動を通して、様々な人と出会い、互いに認め合い、それぞれの良さに気づく場となっている。
③学校の教育活動全体を通じて行う道徳教育と、各学級の道徳の時間との関連を図り、体験や生活経験を生かした指導を行っている。また、どの学年も学年実行委員を立ち上げ、めあてをもって体験活動や校外学習を行っている。自分たちで活動を作り上げることの達成感を味わいながら、意欲的に取り組む子供たちの姿が見られる。頑張りや友達から認められてうれしさ、友達のをさを見つけて自分にかかそうとする前向きな気持ちが学校全体にある。

今年度の目標

子どもたち一人ひとりがかがやき、認め合い、伝え合い、高め合う子を育てるために、活力と魅力にあふれた学校づくりを目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

・児童の委員会活動を中心としたあいさつ運動を全校に広める。
・「あいさつりぼん」で、全校での一体感を味わいながら学校生活を送る。
・なかよし活動の立ち上げ
6年生は下級生のことを考えながら活動計画を立てる。
下級生は、異学年の人と関わることの良さを感じながら活動に取り組む。
・道徳の授業に取り組み、子どもたちの道徳心を養うことで健全な成長を促す基盤を作る。

・なかよし遊び、全校遠足などの活動を通しての友達との良さに気づいたり、班の友達の良さに気づいたり、安心して活動したりできる集団作りを意識する。
・学校公開日で道徳の授業公開を行い、保護者にも取り組みを伝える。

健やかな体の育成プラン

Table with 2 columns: 重点取組分野 (健やかな体) and 具体的取組 (①月一度の体育朝会の中で正しい姿勢運動やラジオ体操、縄跳び運動を実践する。②体力テスト等の結果をもとにした、体力向上一校一実践運動の改善を図る。③保護者の理解のもと「健康で安全に過ごすための生活習慣づくり」を推進し、家庭や地域と連携して体力の向上、生活習慣の改善を図る。)

健やかな体に関わる本校の状況

(1) 健やかな体に関わる児童生徒の実態
昨年度の体力テストの結果より、全体的に体力や筋力の低下が見られた。全校が集まる機会を見ても、長時間立つと体調不良になってしまう児童が何名も見られた。
要因としては、やはりコロナ禍による運動機会、時間の減少が原因であると考えられる。そのため、体育朝会や長縄集会用に、運動に対する意欲を高め、運動頻度の向上を目指していく。
(2) これまでの学校の取り組み状況
昨年度以前までは、体力テストの結果を見ると、ほとんど種目が市の平均以上なのに対し、立ち幅跳びだけが平均を下回っていた。そのため、本校では児童の跳躍力の向上を目指し、縄跳び運動に力を入れていた。
昨年度は、立ち幅跳びは市の平均並みの結果であった。しかし、上記したように、運動意欲や頻度を向上させるためには、学級で取り組んだり、記録更新を目指したりすることができる長縄運動が効果的だと考え、今年度も引き続き実施していく。

今年度の目標

子どもの体力・健康面の姿から課題を明確にし、体力向上一校一実践運動の体育朝会を中心としながら、教育活動全体を通して体力や運動意欲の向上を目指す。

目標を実現するための具体的行動プラン

・月に一度の体育朝会で正しい姿勢運動を行う。音楽に合わせて体を動かすことで、運動意欲の向上につなげる。
・昨年度の体力テストの結果から、柔軟性の低下が見られた。そのため、運動委員会児童と柔軟性を高める運動を考え、月に一度の体育朝会で実施していく。
・週に一回、運動委員会児童が中心となって短縄集会用を呼びかけ、運動する機会を設ける。

・学校保健委員会では、「健康で安全に過ごすための生活習慣づくり」をめざし、重点課題を決め、各クラス、委員会等で話し合い、睡眠、掃除、生活環境等について考える。
・運動会を通して、日常の運動や学習の成果を発表することで、運動に親しみ、運動への意欲や関心を高める。
・学校運動委員会では、長縄集会用を運営する。記録会に向けて各学級で練習に取り組む中で、寒さに負けない体づくりや体力向上を図る。